



入善町立 飯野小学校

校長：植木 裕一 先生

指導教諭：永井 弘美 先生
上田 徹 先生

発表児童：5年生 6名

発表テーマ

いのちを育む水

黒部川扇状地の扇端に位置する校区には、湧水地帯が広がっています。その湧水を源とする庄助川は黒部川右岸を流れ、地区の人々に豊かな恵みを与えています。

総合的な学習の時間に調べた庄助川の生き物やサケの遡上、そして、最近注目され始めた海洋深層水について発表します。

永井 弘美 先生より

「水の恵みに感謝し、水を守るために 何ができるか」を考え始めた子供たち

飯野地区の「名水探検」を通して、子供たちは自分たちの住む地域のすばらしさを実感し、豊かな水の恵みに感謝の念をもつことができました。湧水を源としている「庄助川」。その清流に育つ生き物を調べるうちに、湧水のおかげで人ばかりでなく、たくさんの「いのち」が生まれ、育まれ、そして、守られていることを学びました。しかし、その庄助川にもゴミが落ちていました。子供たちの中に、おいしい水や澄んだ美しい川をいつまでも大切にしたいという強い思いが生まれてきました。水の大切さを知り、きれいな水といのちを守るために、自分たちにどんなことができるかを考え始めた子供たち。水環境を守る活動を子供たちと共に進めていきたいと思えます。



校区は入善町の西端に位置し、黒部川右岸沿いに広がっている。川や海など自然環境に恵まれており、「全国名水百選」にも選ばれた湧水群、園家山砂丘、入善漁港、庄助川、海洋深層水施設などがある。

本校は、創校130年余りの歴史ある学校で、全校児童数は298名。本年度、学力レベルアップ事業の指定を受け、「自ら学び、よりよい生き方を創造する子供の育成」を教育目標に様々な活動に元気に取り組む子供たちである。



▲アワビの養殖について深層水施設を訪ねて、調べました。



▲採卵してふ化した稚魚を放流すると3~4年後に川へもどってきます。



▲川の源でもある湧水池へ行き、本瀬先生のお話を聞くうちに湧水のひみつや湧水といのちのつながりがわかってきました。

考えたこと 感じたこと

私たちの水

森岡 静香 (5年生)

この学習を通して、私たちが住んでいる所にこんなすばらしい「水」があったんだなあと思いました。絶滅しそうな植物や湧水を利用した魚の養殖、地下水や湧水のひみつなど知らないことを次々に知ることができたのでとても感動しました。水みらいプロジェクトでは、湧水や庄助川のすばらしさを伝えられるようにがんばりました。

水の大切さを学んで 井田 百合 (5年生)

庄助川の湧水がたくさん植物や魚の命を育てていることや命のつながりが分かりました。私たちが飲める水はたくさんあると思っていたのに、水みらいプロジェクトで世界には人間が飲める水はほんの少ししかないと聞いて驚きました。これからは、水のむだづかいをせず、水や川を汚さないようにしたり、ゴミを拾ったり、環境にやさしいことをして、水を大切にしていきたい。



学習テーマの設定

水を見つめなおそう

名水と海洋深層水のまち・入善のなかでも、黒部川沿いで湧水に恵まれた飯野地区。でも、水のすばらしさや暮らしとのかかわりには、実はあまり関心がありませんでした。



入善町立飯野小学校5年生



疑問をもって水探検へ

湧水公苑や湧水源で出会った水は、どこからわくの？なぜおいしいの？地中はどうなっている？この水はなくなるの？など疑問が生まれ、飯野の水を探検することにしました。

学習の展開

きれいな川をいつまでも

湧水を源とする庄助川は昔から底まで透明で、ワサビ田やニジマスの養殖などに利用されてきました。川は改修されましたが、自然を生かす工夫がしてあり、きれいな流れが大切に守られています。



庄助川の今とむかし



水がおいしいワケ

ほどよい炭酸やミネラルを含んだおいしい水が当たり前のように飲めるのは、黒部川と日本を代表する扇状地のおかげだと知り、自分たちはほんとうに恵まれた所に住んでいることがわかりました。

いのちはつながる

秋にはサケがのぼる黒部川。サケは湧水のおかげで冬でも凍らない川で冬を越し、やがて産卵して死にます。死んだサケは他の生き物のえさになり、ひとつのいのちは、さまざまいのちへとつながります。



広がる深層水の利用

日本初の海洋深層水を使ったアワビの養殖が始まっています。給食で食べた深層水アワビのスープはおいしく、私たちの給食のごはんは深層水で炊いてあり、とてもおいしいです。



水と豊かなかわりを

水のおかげでたくさんのいのちが生まれ育まれています。私たちは米づくりやピオトープでの生き物観察もしましたが、これからも水を大切に、水と豊かにかかわっていきたいです。

